

事業報告書

団体名：特定非営利活動法人 プロジェクト保津川

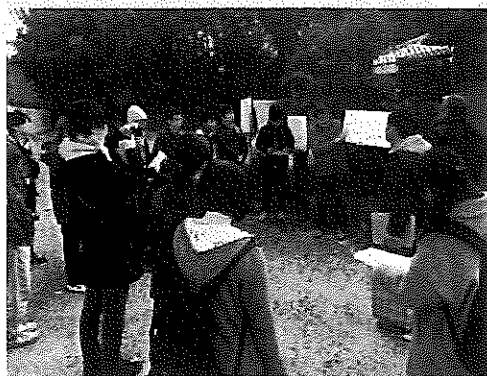
1. 事業名	これからの地域を担う次世代人材育成事業「じぶん未来塾」
2. 実施内容	実施した内容を具体的に記入してください。(日時、場所、参加者数、内容など)
<p><目的></p> <p>「インバウンド」を念頭に置き、恵まれた資源を未来につなぐ若者の視点から、豊かな亀岡の自然・文化遺産を再認識し、「市民共通の価値」を創出することをめざして若者が自由に議論できる「場」を開設する。</p> <p><内容></p> <p>① 観光を切り口に、「亀岡」のイメージを具体化する</p> <p>② 塾生のお薦め観光ポイントのプレゼンテーション</p> <p>③ アンケート調査の実施体験とパソコンを使った分析手法の学習</p> <p>④ 外国人観光客の最新の動向と先進地の取り組みの学習</p> <p><実施事業></p> <p>1) 高校訪問（塾の主旨説明と案内チラシの配布依頼） 8月6日 亀岡高校・南丹高校、 8月10日 園部高校</p> <p>2) 生徒・保護者向け説明会 ①9月24日 ②9月25日 ③9月26日</p> <p>3) 講座実施実績</p> <p><じぶん未来塾> *参加者数は別紙参照</p> <p>毎週木曜日午後5時～7時、ふらっとHOUSE2階会議室で開講</p> <p>10月…1・8・15・22・29日</p> <p>11月…5・12・19・26日</p> <p>12月…3・10・17 (12/17:「第1回世界じもとーくないと」)</p> <p>1月…14・21・28 (1/21:「第2回世界じもとーくないと」)</p> <p>2月…4・18・25</p> <p>3月…3・10・17・24 (3/24:「第3回じもとーくないと」)</p> <p>※世界じもとーくないと:外国人や社会人も交えて、「地元」をPRするプレゼンを行い議論する公開講座</p> <p><じぶん未来塾校外学習></p> <p>10月31日:亀岡マルシェ来場者アンケート調査</p> <p>11月15日:保津川下り乗船客アンケート調査と保津川下り体験</p> <p>3月23日:先進地視察(宇治市) 平等院・宇治上神社・対鳳庵(抹茶体験施設)、商店街、観光協会案内所の見学、鶴匠による日本初のウミウ人工孵化の取り組みの解説など</p> <p>3月24日:じもぶら ～まいまい亀岡編～</p>	



以倉敬之氏（まいまい京都）を講師に招き、亀岡のまち歩きを体験し、若者の視点で亀岡の新しい魅力を発掘し、地域の観光資源について学んだ。

3月31日：先進地視察（高槻市）

高槻ジャズストリートの取り組みを、北川潤一郎（高槻まちづくり株式会社代表取締役社長）にインタビュー調査を実施した。



3. 成果

事業の実施により、課題解決がどのように図られたのか、申請時の事業計画書と対比させるかたちで、事業の効果や成果を数値、具体例などを用いて具体的に記入してください。

本事業では、塾生自らが亀岡のまちを歩き、自分の好きな「風景」をどのように外国人も含めた観光客にアピールするか、自ら考えることで亀岡市のシティ・プロモーションの「柱」となる「地域の宝物」を見出すことを目指した。

講座では、まず講師より外国人旅行者をめぐる最新の動向を紹介した後、塾生自らがアンケート調査を実際に体験するとともに、その分析手法についてもパソコンを使用して実習形式で学んだ。また、留学生が講師として参加し、それぞれの出身地の「お国自慢」を聞くことで、相互理解を深めるとともに、海外で広く日本や亀岡を紹介することを担える人材を育成することに努めた。また、塾の運営自体を参加者の高校生や大学生の提案をもとに進めることで、学生たちの自主性を伸ばすことに努めた。当初は、自ら進んで発言できなかった学生たちも、終了時には積極的に発言するようになり、「これからやってみたいこと」を明確に述べられるようになり、漠然としていた自身の将来像が明確になってきた。こうした点から、目標に掲げた「就業力」の育成についても一定の成果があったと考えられる。

また、「お国自慢」のプレゼンテーションを行う「世界じもとトークないと」や、まち歩きイベント「じもぶら」は、一般からの参加も広く募る公開行事としたところ、予想を大きく超える参加者があった（参加者数は別紙）。これらのイベントでは中学生から高齢者まで、また所属や職業、さらには国籍を超えた幅広い人が集まり、多彩な議論が交わされ、当団体にとっても今までにない関係性が築かれたことも大きな収穫であった。

4. 協働の効果

※市民連携事業・行政連携事業のみご記入ください。

事業を協働で実施したことによる効果について、数値や具体例などを交えながら具体的に記入してください。

5. 今後の展開	事業の実施成果を受けて、今後の事業展開をどのようにされるのか、申請時の事業計画書と対比させるかたちで、記入してください。
<p>今年度の「じぶん未来塾」は初めての試みということもあり、受講生募集や講座内容など全てが手探りの状態であった。来年度は、今年度の経験を踏まえて、内容をさらに改善して実施する予定である。</p> <p>特に今年度は中学生の受講者はゼロであったが、受講生やイベント参加者へのヒアリングでは、開講時間を参加が難しい理由として挙げる学生が多かった。そこで来年度は、こうした声も踏まえて、受講生を高校生と大学生に絞って講座を実施したいと考えている。また、今年度の事業の中で希望の多かった英会話教室や各界で活躍する社会人の講演会なども定期的実施し、講座の魅力をより高めることとする。さらに、今後は市内各学校や各団体とのさらなる連携を強化し、企業等からの協賛金・寄付金を募るとともに、参加者の適正な自己負担額についても検討することで、自立した運営を目指す。</p> <p>特に、将来的には<u>アクティブ・ラーニング(*)の地域における拠点(まちなかラーニング・コモンズ(仮称)(*))</u>として市内各学校との連携についても検討・協議を進める予定である。さらに、それを具体化する方法として、<u>本事業の卒業生が若手を育成する講師となる仕組み</u>を構築し、長期的に自主的な運営が可能な体制を実現する。</p> <p>* アクティブ・ラーニング：子供たちが討論やグループ学習などを通じて能動的に学ぶ学習方法のこと。次期学習指導要領の改訂の大きな柱の一つとなっている。</p> <p>ラーニング・コモンズ：複数の学生が集まって、電子情報も印刷物も含めた様々な情報資源から得られる情報を用いて議論を進めていく学習スタイルを可能にする「場」を提供するもの。その際、コンピュータ設備や印刷物を提供するだけでなく、それらを使った学生の自学自習を支援する支援スタッフによるサービスも提供する。</p>	

※チラシや参加者への配布資料、事業実施写真など実施状況が分かる資料を添付してください。

※記載内容が本様式に入りきらない場合は、適宜追加してください。

京者新聞

10月7日

水曜日



発行所 〒604-8577
京都市中京区烏丸御池川上ル

観光担う若者 育てたい

亀岡市のNPO法人「プロジェクト保津川」は、観光振興の人材育成を目標し、中高生向けの塾「ふん未来塾」をこのほど開講した。観光関係者や大学教員らが講師を務め、情報誌作成など実践的なワークショップも行う。「産業発展だけでなく、若い人に地域の価値をあらためて知ってもらい、定住促進にもつなげたい」と受講生を募っている。

亀岡のNPO「塾」開講



同法人は保津川の環境保全をまっとうの目標として、2007年に設立。美化活動のほか、外国人観光客の誘致など亀岡の観光振興にも取り組んできた。国内外からの亀岡への観光客が増える中、地域の歴史・文化を説明できる人材が足りないという思いから、塾を立ち上げることにした。

講座は毎月1日に追分町の「ふらっとHOUSE」

観光業の人材育成を目的に開講された「ふん未来塾」の教室（亀岡市追分町・ふらっとHOUSE）

「地域の価値を伝授」

で開講した。来年3月末まで毎週末曜午後5時～7時に開く。講師陣として、同法人代表理事の原田禎夫・大阪商業大准教授や保津川下り船頭の豊田寛司さん、元旅行代理店勤務で海外からの観光客誘致に詳しい西條繁さんのほか、今後は市内の観光事業者らも担ぐ。

講義形式の授業のほか、参加者同士の自由討論や旅行プランの提案なども行う。留学生を迎えるの語学研修や、先進地視察も予定している。丹波地域在住の中高生対象で、参加費1回500円。

原田さんは「観光を切り口に、世界に向けて発信ができ、文化が異なる人と交流ができる若者を亀岡で育てていきたい」と目標を語る。問い合わせはプロジェクト保津川0771(2)02569。

(久保田昌洋)

丹波



T621-0814

丹波 49